

かみす

Pick up

▶2月2日(日)神栖市議会議員一般選挙
▶確定申告・住民税申告のお知らせ

特集

まちの魅力再発見

山本家住宅

全国でも貴重な「漁家」の重要文化財

思わず見上げてしまう見事な梁。約300年に
わたり受け継がれてきた建物です。漁家として
国の重要文化財に指定されているのは山本家を
含め、全国で数件しかありません。平成4年着
工の全面解体修理工事を中心に、山本家住宅の
歴史をたどります。

AR 広報かみすが
動き出す



[COCOAR2]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は16ページ

山本家住宅

全国でも貴重な

「漁家」の重要文化財

神栖市でただ一つの国指定重要文化財である山本家住宅。平成4年着工の全面解体修理工事で、江戸時代中期(18世紀前半)の姿に復元されました。今回は私たちの身近にある、全国的にも極めて貴重な文化遺産に迫ります。

漁家としての指定は全国に数件のみ

穏やかに晴れた冬の日、奥野谷の山本家住宅を訪れると、庭で落ち葉をかきをしていた山本信三郎さんが迎えてくれました。懐かしい趣に満ちた、どっしりとした茅葺屋根^{かぶき}。屋内に足を踏み入れると、天井の高さと梁や桁^{けた}の造形美に目を奪われ、重く大きい屋根を支える匠の技に圧倒されるばかりです。

建てられたのは18世紀前半と考えられ、寄棟造りで、南正面の東寄りが大きく突き出た曲屋形式、正面と西側面の屋根が軒下に張り出した「せがい造り」などの特徴があります。

昭和51年、山本家住宅は国の重要文化財に指定されました。山本家は鹿島灘に近い神之池畔にあり、江戸

時代には網元や名主を務めた旧家です。国指定重要文化財の漁家は山本家住宅を含めて全国に数件しかなく、極めて貴重な文化遺産といえます。

奥野谷が半農半漁の村だったころ

鹿島臨海工業地帯ができる前、鹿島灘に面して深芝浜、奥野谷浜、知手浜、日川浜が連なっていました。網元をしていた頃の話伝え聞いていないか、山本さんに尋ねてみました。

「鹿島灘で

イワシの地引き網漁が盛んだったのは江戸時代から明治にかけて。もともと奥野谷は半農半



深芝浜の地引き網漁(昭和28年ごろ)



茅葺屋根の重厚さ、梁や桁の造形など建築物としての美しさに圧倒される。と同時に木の温もりや懐かしさを感じる。山本家住宅を管理する山本信三郎さんは「この茅葺屋根を見ると実家に帰ってきたと感じる」と話す。



漁の村で、ここから今の市役所の方にかけて田んぼが広がっていました。先祖が庄屋をしていたので、ニワバ（土間）は米倉に使われていたと思うれます。漁家の名残はほとんどなく、唯一残っているのは地引き網漁のとき煮炊きに使われた大釜くらい。あまりにも大きいので、よく五右衛門風呂と間違われます（笑）」

茅葺屋根の家で暮らした子ども時代

昔は、冠婚葬祭の儀式も出産も、すべて家で行なわれていました。山本家住宅では、山本さんの両親が結婚式を挙げ、4人の子どもが誕生。三男として生を受けた山本さんに、子ども時代の思い出話を聞きました。「子どもの頃は、よく神之池で水遊びをしました。神之池から鹿島砂丘まで見渡せて、4キロメートルも離れた鹿島灘の潮騒も聞こえましたよ。庭の裏にみかんの木があって、遊び仲間とよくみかんをもいで食べたのも楽しい思い出です。茅葺屋根の家は、夏は涼しいけれど冬は寒くてね。いつも囲炉裏かこたつに家族が集まって過ごしていました。お風呂を沸かしたり雨戸を閉めたり、家の手伝いも子どもの役目でした」

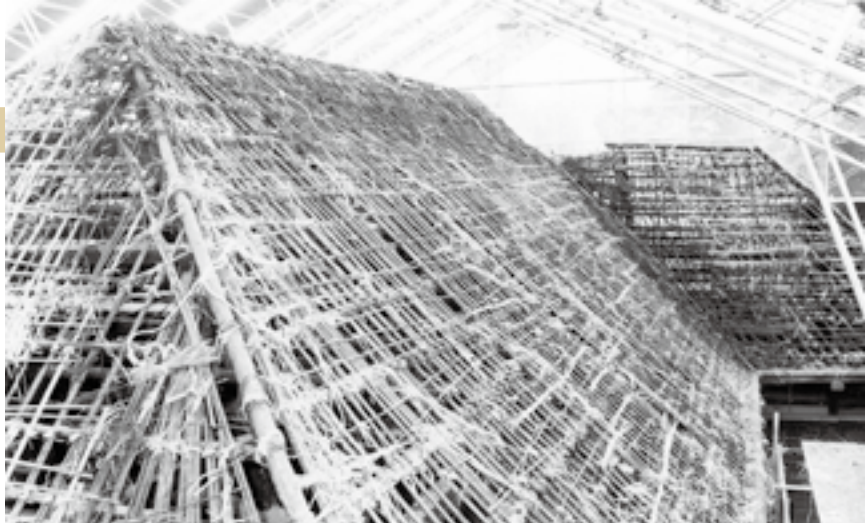
こうした生活様式は時代とともに急速に失われましたが、その記憶はしっかりと山本家住宅にとどめられているようです。その後、鹿島開発でまちの姿が様変わりし、国の重要文化財に指定されてからも、山本さんの両親と長兄がこの家で暮らし続けました。

全面解体修理工事の一大事業

平成4年、山本家住宅の全面解体修理工事が始まりました。丸2年の歳月を費やした一大事業です。工事が必要となった理由は、道路のかさ上げによって敷地内に雨水が流れ込むようになり、土台が傷んで建物が傾き、とくに床を支える骨組みの破損が深刻だったためです。

「鹿島開発の頃は、家の前の道路を毎日何百台もダンプが走り、3年に一度は舗装し直して、そのたびに道路がかさ上げされました。全部で80センチくらい高くなったと思います」と話す山本さん。周囲の環境が変わったことで、敷地が凹地のような状態となっていました。

工事は非常に大掛かりなもので、まず建物を覆う素屋根や、解体した建具や材木を置く保存小屋が作られ



ました。そして約5カ月がかりで、すべての部材を解体し記号をつけて保存小屋に格納し、礎石まで掘り起こされました。あらわになった地面を見て、山本さんは「なんととも言えない不思議な気持ちになった」と振り返ります。

基礎工事で約60センチメートル盛土をし、水洗いした礎石を位置・方位・高さを正確に据え付けました。

いつ、どこが改造されたかを調査

全面解体修理工事の目的は、建築当初の姿に復元して保存することです。そのため、過去に行なわれた修理改造の痕跡が丁寧に調べられました。その結果、江戸時代後期の文化11・14年（1814・1817）にかけて大改造があったことが分かっています。例えば、ゲンカン前の軒下に式台を設ける、ヒロマを二間に仕切る、ニワバ西側の大戸口を格子窓に変えるなどです。

その後も小改造が重ねられ、昭和初期にはニワバ西側に下屋を設けて風呂場をつくる、2カ所に押入れをつくるなど、昭和30年ごろにも窓の改造や建具の取り替えなどが行なわれています。

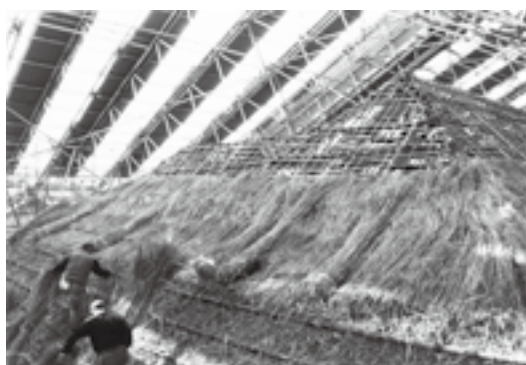
こうして、いつ、どこに、どのような手が加えられたか判明しましたが、工事中の詳細な調査でも明確な建築年は分かっていません。

復元工事にあたっては、柱や梁、床板などではできる限り元の木材を使用し、新しい木材に取り替えた部分は周囲と馴染むよう古色塗りが施されています。

茅を葺き替え、煙でいぶす

屋根は、梁や桁で小屋組を作り、丸太で補強し、竹材で下地を設けてから茅葺の作業となります。山本家住宅の特徴であるせがい造りの南面・西面と、せがい造りではない東面・北面とでは、下地の方法も違ってきます。

「茅葺屋根は、10〜15年ごとに刺し茅というメンテナンス、25〜30年ごとに葺き替えが必要になります。茨城県はありがたいことに、小美玉市と石岡市に茅葺の職人さんがいますし、つくば市や稲敷市に茅場もあります。新しい茅は虫がつきやすいので、葺き替え後は囲炉裏で火を焚いて煙でいぶします。今でも屋根を守るため、たまにいぶしていますよ」と話す山本さん。茅葺屋根を維



復元される茅葺屋根。葦の長さをそろえて束ねる、屋根に敷き並べる、刈り込むなど多くの工程を経て仕上げる(上・左)。



東日本大震災時の津波による浸水の高さを示す。壁にうっすらと水の跡が残っている。土壁は削られ建具は流されたが建物は耐え残った。

持するのは大変なようです。

山本家住宅を見学すると、整然とした茅葺の美しさを間近で見ることができ、その厚みにも感動します。

震災からの復旧と新たな活用

平成23年の東日本大震災で、山本家住宅は津波の被害を受けました。

「床上85センチメートルまで浸水し、戸障子はすべて外れ、戸袋が抜けました。古い資料や写真もだいぶ失われましたが、歴史民俗資料館に預けてあった分だけは無事でした」

復旧後の山本家住宅には、新しい動きが見られます。平成27年に地元出身の芸術家の個展や、音楽家による音楽会などが開かれました。「とても好評だったようなので、これからは要望があれば神栖市と相談しながら活用していこうと思います」

山本さんの楽しい話を聞いているうちに、国指定重要文化財がとても身近に感じられてきました。

神栖市のシンボルの文化財

神栖市歴史民俗資料館には、山本家住宅の精巧な模型が展示されています。同館の谷田法子係長に、改めて山本家住宅がどれほど重要な存在

なのか聞いてみました。

「神栖市で唯一の国指定重要文化財であり、市の文化財のシンボルの存在と言えるでしょう。平成5年に開館した歴史民俗資料館は、山本家住宅の曲屋をイメージして設計されています。山本家住宅を通して郷土の歴史や文化に関心を持っていただけたらと思います」

建物の構造や佇まいをはじめ、江戸時代から鹿島開発を経て今に至る歴史、昔懐かしい生活様式など、いろいろな角度から興味が尽きない山本家住宅。地域の貴重な財産を見つめ直してみませんか？



歴史民俗資料館

*外観は自由に見学できますが、建物内部を見学する場合は予約が必要です。

問合せ

文化スポーツ課

☎0299-77-7495

見学予約：山本家 ☎0299-96-0630